



第11号

令和4年3月

斐川町更生保護女性会





更生保護女性会綱領

- 1. 私たちは 一人ひとりが人として尊重され、社会の一員として連帯し、心豊かに生きられる明るい社会をめざします
- 1. 私たちは 更生保護の心を広め、次代を担う青少年の健全な育成に努めるとともに、関係団体と提携しつつ、過ちに陥った人たちの更生のための支えとなります
- 1. 私たちは 知識を求め自己研鑽に励むとともに、あたたかな人間愛をもって明るい社会づくりのために行動します

■ 会長のことば ■

「更女活動の一層の充実を願って」

斐川町更生保護女性会
会長 江角 佳子



斐川平野を吹き抜ける寒風は、ほのかな梅の花の香りを運び私たちの心を癒してくれます。今年度は鳥根県更生保護女性連盟60周年を迎えました。それに先立ち一昨年には斐川町更生保護女性会は結成60周年を迎え、記念の“ほ、笑み”増刊号を会員の皆様にお届けいたしました。

先輩諸姉から受け継いだ更生保護女性会の地域活動をとおしてお互いに幸せを感じることができたら何事にも代えがたいと思います。

感染症拡大で我々の今までのような活動ができなくなってはや三年を迎えます。それに加え世界情勢の危機も加わり、不安と閉塞感、孤独感がますます深まってくるように感じます。そんな中でも各支部では人々のつながりを絶やさぬように、生活に不安を抱えた方には提供できる範囲で物資をお渡しするなど様々な活動を展開しています。

今までの活動や今できる活動をする中で、全ての世代の方々にお互い心が少しでも開かれますように願います。そして後世を担ってくれる子供たちには、人を大切にし地域を愛してくれるよう呼びかけていくことで必ず明るい未来が訪れると信じています。更女活動の充実を心よりお願いいたします。

皇后宮清秋

あすはるの心

あすはるの心

あすはるの心

久子書

きずつきし心の子らを

いただきよする ははとも

なりていつくしまなむ

更生保護制度施行十周年にあたり三十五年九月
皇后陛下より更生保護関係者に賜った御歌

謹書 鳥津久子

令和2年度 伊波野支部総会

令和2年6月17日伊波野コミュニティセンター集会室で、令和2年度更生保護女性会伊波野支部総会が開催されました。

集会室では手指消毒やマスクの着用、窓を開けて換気し座席の間隔を空けて座る、飲食はしないなど、細心のコロナ対策を心がけて支部総会が始まりました。

総会は例年通り、前年度の活動報告並びに会計報告、その他の連絡や今年度新しく支部に入会された3名の自己紹介などがあり、和やかな雰囲気の中進んでいきました。

その後、「切らずに治せる粒子線治療最先端のガン治療」と題して、兵庫県立神戸陽子線センター出水祐介先生による記念講演がありました。今回は支部会員の他にも講演を聴きに來られた方々もいて、関心の深さを感じました。

出水先生のお話は私達にも理解しやすいように、陽子線や粒子線などの説明から始まり、ガン治療のお話ではいくつかの症例を挙げながら治療の流れや様子、その後の経過など、普段あまり聴けない貴重なお話しをして下さいました。質疑応答もあり、多くの皆さんが頷きながら熱心にメモを取っておられる姿がとても印象に残りました。

この講演で健康の大切さに改めて気付き、考えるよい機会となりました。多くの事が学べた貴重な時間でした。



コロナ下での総会

出西支部総会

令和2年度

コロナの拡大状況の緩やかな6月25日、感染症対策を取りながら時間差を設けて、総会の資料配布、会費の集金をしました。新役員の紹介と会員の安否確認をして、役員で作ったお茶のお伴のカステラを、お土産に配布しました。



令和3年度

6月25日に13時30分～14時30分までの短縮で総会をしました。

高橋孝治出西コミュニティセンター長に出西地区の現状についてご説明いただき、その後令和2年度事業報告・決算報告と令和3年度事業計画・予算について審議しました。

最後に「コロナ禍における健康管理—フレイル予防について」と題して、斐川高齢者あんしん支援センター 金築 清子氏のお話を聞きました。参加者には、役員で作ったエコバッグをお土産としました。

令和3年度荘原支部総会

令和3年6月27日午後2時～荘原コミュニティセンター集会室に於いて、更生保護女性会荘原支部総会を開催しました。会員47名中30名の出席がありました。

去年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としましたが、本年は三密を避け、短時間で終了するよう計画をいたしました。令和2年度事業報告並びに決算、令和3年度事業計画、予算について審議を受け、原案通り可決承認頂きました。

本年の活動については、コロナ禍でありますので気を付けて進めたいと思っています。

続いて研修に入り、現在ステイホームの日々でありますので、「フォークソング愛好会 スイーツさん」を迎え、懐かしい曲を心静かに聞き、総会を無事終了いたしました。

活動の様子

出東支部総会

令和2年に続き、今年も無いものと思っていた出東支部の総会…案内状が届いたのは6月の初旬、7月10日に行くという…。

コロナもまだ終息しそうにない中、昨年出来なかった分、何としても顔合せがしたい！通称顔合せ総会として行いたいという、役員・理事さん方の強い思いが感じられる雰囲気の中でした。

各机に置かれた、生花の素晴らしい事。女性の会だなあとごみました。御歌斉唱も録音のみで、生歌声の無い所に、一番コロナ禍を感じましたが、こうして皆が集う点に希望を実感出来ました。

終了後は、講師をお呼びすることもなく同じ会員の大場さんによるリラックス体操の指導と、イス取りゲームで大笑いの中幕を閉じました。今の時期大丈夫？と思った人もあったかもしれませんが、大成功でした。



阿宮支部

コロナ禍で、令和2年度と同様今年も「愛の募金」のお願いが自治委員さんへ郵送され、早速、7月の常会において自治会の皆さんの深いご理解と協力を得て無事納められました。かつてない不安と心配が続く中、臨機応変な感染対応策のもと「愛の募金」がなされ、安心致しました。この様な方法に至るまで、先輩諸姉が行政と話し合いをされ努力の結果が今あるということに今改めて敬意を表したいと思います。



久木支部総会

総会なしの1年半の後、研修会並びに活動報告会として11月行う事が出来ました。

江角会長の講演を聞き、分かり易いお話で更女の歴史と活動について改めて理解を深めることができたという会員の皆様の感想を頂きました。また、今回はフードドライブ協力をお願いしたところ、たくさんのご寄付をいただき、社協より大変感謝されました。これからの会の展望について、更女として活動しようと確かめ合うことも出来ました。



直江支部研修会

令和3年12月16日に直江支部研修会が行われ参加いたしました。

『介護保険とさまざまなサービス』というテーマで出雲市社会福祉協議会専門委員の方に講演をしていただきました。

斐川町の人口3万人弱のうち65歳以上が8,260人（高齢者のみ世帯2,163人／介護認定者1,564人）の高齢化地域であるとあらためて思いました。

その中で行政の取り組みの一つに、介護支援無料バスの利用と活用を詳しく学ぶ事が出来ました。

身近にも交通手段でお悩みの方々がおられますので、情報共有をして悩み解決の手助けが出来る行動をしていければと思うきっかけになる有意義な時間を過ごせました。



今こそ「更生保護の誕生、きっかけ」を思いおこしてみませんか

更生保護の誕生



金原 明善(きんばら めいぜん/天保3年(1832年)~大正12年(1923年))は明治時代に活躍した事業家です。静岡県浜松市出身で天竜川の治水事業・北海道の開拓・植林事業などの公共事業に尽力し、近代日本の発展に貢献した人物です。1888年(明治21年)には、静岡県出獄人保護会社を創設し、日本で最初に刑余者(以前に刑罰を受けた人)の保護事業に着手しました。現在の更生保護司制度の創始者と言われています。



川村 矯一郎(かわむら きょういちろう/嘉永5年(1852年)~明治23年(1890年))は大分県中津市出身で静岡監獄(刑務所と拘置所を含む施設)の副典獄(副所長)を勤めていた人物です。金原 明善と共に受刑者の保護事業を始め、我国最初の保護司と言われています。

更生保護のきっかけ

明治20年代に、静岡監獄に、あらゆる罪科を重ねた吾作(仮名)という囚人がいました。多くの看守がほとんど手を焼くほどの問題受刑者で10年以上も監獄にいました。しかし、川村矯一郎の熱心な訓戒(教え)として、いましめることが効を奏して心底改心しました。出所の時には川村副典獄に「今後は道に外れるようなことは、誓っていたしません」と必ず更生を遂げ再び監獄には戻らないことを誓って獄を去って行きました。

寝る宿もなく、食べるお金も全くない。以前の彼だったら、たちまち悪事に走ったはずですが、脳裏には「もう悪さはしない」という川村副典獄との約束がありました。二度と悪事はできない。彼は川村副典獄宛に長い手紙を書き残して、遂に村外れの池に身を投げ、自らの命を断ってしまいました。

矯一郎は、この手紙を手にとると、とても長いため息をつきました。

川村 矯一郎はこの手紙を読んで金原明善に話しました。話を聞いた明善は、「川村さん、あんたの名訓戒も人を殺すに至っては功徳とはいえない。改心して監獄を出た者を社会の中でしっかりと保護する方法を考えなくてはなりません。常々、あんたは欧米には出獄人を保護する団体があると言っているが、それをなんとか、静岡県にも作るうではありませんか」と提案をしました。

そして、この二人の行脚が始まり、県下の有力者に主唱を依頼して、出獄人保護会社の設立を図ろうとする運動が始まり、日本で最初の更生保護施設が静岡県に設立されました。

斐川町保護司会会長からのメッセージ

更生保護女性会と保護司会

出雲地区保護司会 斐川支部長 市場 隆子

ちかごろ、社会を震わすような犯罪の発生で発生予防がとても大切になっています。

一方、少年院や刑務所から釈放された人達が、再び罪を犯すことがないように温かく迎え入れることも大切です。

私たち保護司は、犯罪により「保護観察」を受けることになった人が善良な社会のひとりとして復帰出来るようにする活動をしています。生活を見守り、様々な相談にのったり指導したり等です。

再出発を支える地域の5つの仕組みの中に更生保護女性会があります。斐川町は県下でも松江市に次ぐ多くの会員さんがおられ、各々の支部で女性の立場から犯罪の予防や子どもたちの健全育成、そして子育て支援に熱心に取り組んでおられます。

保護司との協同活動で、社会を明るくする運動の一環として町内の東・西中学校で各年交互で開催する講演会と対話集会にも校区内の更女さんに参加してもらっています。

又、今年度は8月に斐川地区保護司会主催で、映画「プリズンサークル」の上映と講演の集いを県下の関係団体に呼びかけ開催しました。斐川の更女さんも、研修の一環として総出で参加された支部等もあり多数参加されました。

受刑者同士の会話から、幼い時期に育つ心がいかに大切か大きく心に残ったのではないのでしょうか。家庭の温かさ、絆の取り戻しが必要な子どもたちに、「自分のことを思ってくれる人が近くにいるよ」と感じてくれるよう心のまなざしを大切にしてほしいものです。

新会員研修 (令和2年度)

出東支部 足立 恵子

令和2年度の、「新会員研修会」に参加させていただきました。その中で心に深く残ったのは「更生保護」の発端となった歴史的事実でした。

明治の中頃のこと。手に負えない囚人だった男が獄中での熱心な指導の甲斐あって心底改心し、模範囚となり二度と罪を犯さぬと誓って出所。ところがその当日、男は絶望に打ちひしがれて自らの命を絶ったのです。両親はすでに亡くなり、妻には新しい家族ができていました。出所する彼を待つ人、彼が改心していることを知る人など誰一人居ない中、以前の彼を知る親戚知人は、当時のままの乱暴者として彼を見、恐れおののいたのでしょう。彼は家に入ることはおろか、庭先でたった一晩過ごすことさえ許されなかったのです。改心前ならば、乱暴狼藉を働いてでも思い通りにしたでしょう。しかし彼は絶望の果てに遺書を残し、池に身を投げたのです。改心したふりをして出所し、その後は好き勝手に振る舞うこともできた筈。でも彼は改心の誓いを誠実に守ったのです。この悲惨な出来事を知った獄中の彼を知る監獄の副所長が篤志家に働きかけ、更生保護活動が始まったそうです。

今は更生保護の法律も設けられ、保護司制度等出所後の見守りは進んでいます。しかし社会復帰するにはその社会の中で自立し、信頼関係を築く必要があるのです。地域での人間関係が薄れつつあるといわれる現代社会で、私達は何かができるのか。難しくも重い課題を与えられた思いで会場を後にしました。

令和3年度

県の新会員研修は中止となりました。県から配布された資料をもとに、江角会長が2回に分けて会員研修をおこないました。参加者の感想を紹介します。

更生保護女性会の成り立ちや概況について説明していただき少しわかったように思います。

仕事をしているのでなかなか協力できないかもしれませんが自分のできる範囲でお手伝いさせていただければと思います。ありがとうございました。

更生保護女性会の意味が理解出来て良かった。微力ではありますが地域のつながりを大切にして、今後の活動に努めたいと思います。

短い時間でしたが、身近な話を取り入れて話して下さいましたので、より更生保護の活動を知る事が出来ました。新会員は、少しハードルを下げて、最初に、この様な研修を開いて下されば喜びます。



更生保護女性会の会員となって4年目になるかと思えます。絵本の読み聞かせの活動に参加したこと、今年上映会をされたプリズンサークルを観賞したことを通して感じていたことは大きく変化し、今日の新人研修は、とても勉強になりました。

昭和36年に立ち上げられた全国の次に斐川町の女性会の活動が始まった歴史を通して改めて、斐川町に対しての想いに感謝と感動しております。

未熟ながら、出来ることから、参加させていただきよろしくお願致します。

更生保護とはどんな活動をするのかなと思っていました。大変にむづかしいことだと思って私には出来ないことだと思っていましたが、今日の会長さんの話で、子供たちへの一寸した声かけ困った方に一寸手助け、こういうことでもいいのだと思いが楽になりました。

・更女のルーツのはじめを、解説されたのがよかった。今まで、研修会に参加されてない方々、理解をできていないと思われる方に、支部単位でよいので、開催していただけるとよいと思えた。

・今までの活動の内容が、コロナで、ゼロになりつつある所、違った形での活動ができるように流れを作っていくべきだと思った。

・更生の意味をもう少し深く知って今後に生かしたい。

更生保護なんて自分で出来るかなとすごく不安でしたが、今日江角会長さんの話を聞き、なる事をすればよしの事、ちょっと安心しました。近所の事から、すこずつやろうと思います。

更生保護女性会の歴史を含め、これまで果たしてこられた役割について、お聞きすることが出来ました。

早い段階で、このようなお話を聴く機会を作っていただきありがとうございました。

小さい方ですが、先輩の皆様とがんばっていきたいと思います。

・ご近所の方に誘われ、気軽に女性会に入りますが、活動の中身もよくわからないまま、コロナのなか何もしないまますごしていました。

今日、研修を受けて、身近な人とのつながりで、歩んでいけばよいのがわかりました。

・更生保護女性会について立ち位置が判り、心の持って行き方を日常の生活の中で、生かして行ける様になればと思ってきました。

社会を明るくする運動、広報啓発活動、メッセージ伝達式

第71回 メッセージ伝達式

令和3年7月1日、ビッグハートにおいて、内閣総理大臣からの“社会を明るくする運動”の伝達式が、出雲地区保護司会長から出雲市長へ、次に青少年の非行・被害防止強調月間メッセージが、出雲警察署長から出雲市教育委員会教育長へ伝達されました。

式後、“薬物を使う人は、なぜ助けを求められないのか”と題し、大阪ダルセンター長の倉田めば氏による啓発講演会が開催されました。

第71回“社会を明るくする運動”啓発講演会

薬物を使う人は なぜ助けを求められないのか

講師 倉田めばさん

(薬物依存回復支援団体フリーダム代表)

◆プロフィール

Freedom 代表、大阪ダルセンター長
精神保健福祉士。尾道市出身。大阪写真専門学校卒業。
日本福祉大学福祉経営学部（通信）医療・福祉マネジメント学科卒業、
1993年フォトグラファーの仕事をやめ薬物依存回復施設
「大阪ダルク」を設立。
自らの薬物依存からの回復の体験を生かして、薬物依存者の回復の
サポートを続ける。
2002年、薬物依存症からの回復を支援する市民団体「Freedom」を
多くの賛同者とともに設立。新たな社会資源の創出に向けて奔走中。



◆主著

「[座談会] 言いつばなし聞きつばなし「当事者研究会議」『臨床心理学 増刊第10号』
「グループをつなぐ一縦の系譜と横のつながり」『臨床心理学 増刊第11号』
「リカバリー・アウトロー—薬物を使う自由とやめる自由、そして回復」『社会学評論(71-2)』
「依存と表現」『統合失調症のひろば(14)』
「共通言語との必要性和落とし穴」『統合失調症のひろば(16)』



主催：出雲地区保護司会

協賛：“社会を明るくする運動”出雲市推進委員会

映画「プリズンサークル」の上映

とき 8月22日(日) 14時～ ところ 出雲市民会館大ホール

社会を明るくする運動の一環として感染症拡大防止対策をしながら600名の入場制限を設け、入場無料で上映会が開催されました。

コロナ感染拡大の懸念からさまざまな活動が中止となっている中で、更女活動の研さんを積むために、斐川支部からも多数が映画を鑑賞しました。



感想

この映画は、社会復帰する為のリハビリの場として、与えられた2年間の課程を通し4人の若者が(ソーシャルワーカー?)達の指導の元、復帰していく映画でした。

一日一日を一人一人がきびしく接する中で自分自身と向き合う時間、空間でした。

普段、目にする事のできない内容でした。

退所後、定期的に施設の方々話し合いの場を設けておられ、素晴らしい事だと思いました。

感想

浜田市にある「島根あさひ社会復帰促進センター」を舞台に、犯した罪を償うだけでなく、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「回復共同体」というプログラムをこなしていく過程が描き出されていました。

犯した罪だけでなく、幼い頃に体験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情を吐露、解放する事により、はじめは寡黙であったであろう彼らが、心の内面を表現する言葉を獲得していく姿を丁寧に愛情を持って撮影、映画化されていたと思います。

この「回復共同体」のプログラムをこなして出所した受刑者の再犯率は低いとのこと。心の内底にある感情を全て言葉にして話すという作業はとても重要で大切なことと思うと同時に、もちろん幼児期からの成長過程も大事なことと思いました。

更生し社会で活躍し、もうあそこ(刑務所)へは戻らないと言っている彼らの笑顔が印象的でした。

感想

刑務所、受刑者という言葉はテレビなどの報道で耳にするものの、深く考えたことがなかった。以前の研修会で、官民協働の新しい刑務所「島根あさひ社会復帰促進センター」を見学させて貰った。その時の何とも言えない緊張感は忘れられない。遠目に受刑者が見えたが、受刑者の思いまで馳せることはなかった。プリズンサークルの映画上映のことを知った時に、是非とも観たいと思った。受刑者同志の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC(回復共同体)」というプログラムが日本で唯一導入されているという。選ばれた40人が対話を重ねながら自分を見つめ直していく。自分の不幸を嘆いてばかりいた受刑者が、少しずつ変化していく。刑期を終えていく青年の表情がとても印象的だった。このプログラムで幼い頃に経験した、いじめ、虐待、差別などの記憶を語る受刑者。重くて、苦しくて、聞いているだけでも辛くなる内容ばかりだった。幼少期の大きな心の傷は計り知れない。問題解決まではいなくても、しっかり寄り添ってくれる大人がいたならば、少しはいい方向にいったのだろうか。私たちに何が出来るのか。なかなか答えは見つからない。是非とも沢山の方にこの映画をみていただきたい。

社会を明るくする運動

斐川西中学校対話集会に参加して

伊波野更生保護女性会支部長 片寄 順子

参加者 生徒28名 保護司・更生保護女性会12名

テーマ「この世の中を、中学生を通して思うこと」

対話集会が始まる前に校内を案内していただきましたが、整理整頓がされ明るく気持ちの良い環境でした。とりわけ廊下とか壁が木造りで広く作られており落ち着いた雰囲気は癒されます。

集会は自己紹介のあと意見交換に入りましたが、

1. 広く社会について ・願うこと ・中学生として思うこと
 2. 地域や身近なことについて ・願うこと ・困っていること ・中学生として思うこと
- などについて各班で発表があり、生徒さんが地域や社会のことを自分のこととして考え率直で素直な意見はたのもしく好感がもてました。これから困難なことがあるかもしれませんがきっと楽しくやりがいのあることもいっぱいあるはずです。またそれを築いていくのも私たちの責任です。私はときどきたわいのないことを思うのですが、自分が生まれ変わったらやっぱり10代の皆さんののころになれたらと思います。

中学生が課題としたこと

- ・感染症コロナに対する意識、人権、ワクチン接種
- ・東京オリンピック
- ・地球温暖化
- ・通学路の横断歩道
- ・田んぼの埋立…農地が減る
- ・コロナ下…伝統文化交流が減り継承が困難
- ・グローバル化



斐川東中学校講演会に参加して

出東支部 福間 良子

令和3年6月30日 社会を明るくする運動の一環で、住職 江角弘道氏の講演を生徒さんと一緒に聞きました。

飲酒運転の車に衝突され、娘さんを亡くされました。

大学を卒業したら、英語力を生かした仕事に就こうと頑張っていた矢先の出来事で、さぞかし無念だったことでしょう。住職も家族も落胆なさったそうです。

それでも、同じ思いをする人が無くなるように、仲間と共に飲酒運転撲滅運動をなさっているそうです。

当日は、生徒さんに向けて、「命を大切にしたい、飲酒運転は絶対にしてはいけない！」と必死に話されました。生徒さんも熱心に聞いていました。

将来は、この生徒さんたちも、お酒を飲む機会が訪れることでしょうか、早いうちの教育は必要と思いました。





図書カードの配布



フードドライブ協力



集団下校の見守り

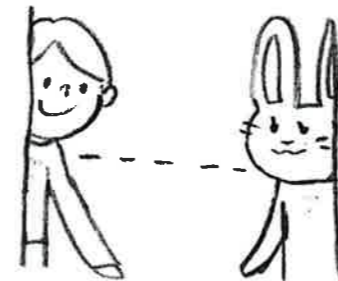
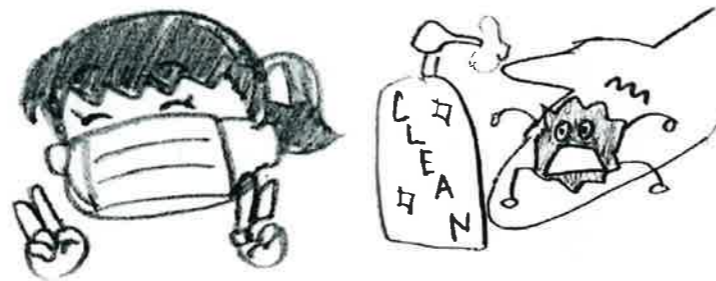


コロナ禍の活動

～できることをしよう～



シトラスリボン作り



出雲高校2年 水 真琴さん作

敬老の日のフクロウ飾り作り



清掃ボランティア



石鹸配布



新型コロナと向き合って

2021年1月16日 日本国内初の感染者
国の主な動き 日本全国の小中高校の臨時休校要請
全都道府県に緊急事態宣言発出
特別定額給付金（1人あたり10万円の給付）
Go Toキャンペーン
（緊急事態宣言に伴う外出自粛と休業要請で
疲弊した経済の再興を図ることを目的とする
日本国政府による経済政策）

自粛生活—おうち時間の楽しみ方・過ごし方

「私の好きな花づくり」

トルコギキョウ栽培は県と農協から勧められました。この花は一見ゴージャスでデリケートな花に見えるかもしれませんが、今年の7月の集中豪雨で定植をして間もない苗が水没したにもかかわらず、秋には綺麗な花を咲かせてくれました。シンプルで頑丈な不思議な側面を持った花です。品種によっての育て方など分かってくると楽しいものです。

若いころには疎ましく思っていた農の暮らしは、今では体の動く限り花との語らいを楽しみたいと思うようになってきました。



外出しない時間を利用して裁縫に挑戦。簡単なブラウス程度の物が作れるようになったこと。

コロナ禍で、我家でもGo To Eatを利用したテイクアウトの食卓が何度ありました。

店の個室が我家で味わえ、赤ン坊が居ても心配いらずで、家族だけで案心して食べられて、御三どんの女性陣は大助かりでした。

コロナ禍の中変わった事は毎日買物に出るのではなくまとめ買いが多くなりました。

畑で出来た夏野菜を存分に使い、テレビの料理番組を見ながら、体に良い食事作りが出来ました。

コロナ禍で、容易に人に会えない寂しさを埋めてくれるのは、畑作業といけ花。

感染対策を取りながらのけいことおしゃべりは、人と関わって楽しく有意義なひとときである。

この時が少しでも永くもてるよう精進したい。

コロナ禍でステイホームになって、外食もできなくなり、家での料理を楽しむようになりました。

簡単一汁一菜でも、家で自分で作った食べる食事が一番おいしいと思うようになりました。

又、「普通」であることが、どんなにすばらしいことかを感じました。それまでは「普通」というのは、もの足りない…ようなニュアンスで使っていました。

コロナ禍、体力づくり、ストレス解消に里山歩きをしています。斐川町にある仏教山、高瀬山、大黒山、出西の三本松公園。頂上からのながめ四季折々最高です。健康に感謝し、山の自然に触れ心を癒される一時です。

コロナの中、お盆で、親せきの仏様の供養ができず、我家で供養しました。コロナの中、行ったり来たりできず、子供、孫とで供養しました。早く終息をして、先祖様も安心して見守ってくれると思います。

外出もままならないコロナ禍の中、折紙でこまを折り孫と回して遊んだり、簡単な菓子作りにはまってパウンドケーキ、台湾カステラ、コーヒーゼリー、プリン等を作って楽しみました。

一日も早く終息し普段の生活が出来る事を願っております。

先日、友人とシェアハウス生活をしました。ご主人がコロナ感染者が多く出た所へ仕事に行かれ、接触を避ける為、私の家で生活したいと云う事で承諾しました。いつもは一人暮らしですが、8日間、一緒に食事を作ったり、テレビを見たり用事が有る時はそれぞれ別行動をして過ごしました。

老後親しい人とシェアハウス生活をしたいなと思っていましたので、良い機会でした。料理も教えてもらったりして楽しかったです。

ウイズコロナの想い

「コロナの中での自粛生活において」

思いも寄らないコロナと言う大物がまいこんで、みんなが見えない物に恐怖を感じながらの毎日の生活ですが、私もそのひとりで、毎週の合唱の練習も大きい影響を受けました。飛沫の飛ぶ最大の趣味なのでからフェイスマスク等色々試行錯誤しながら、そして少しの休みを取りながら戦っております。

歌えないつまらなさ、みんなに会えない寂しさを感じております。その中でも、マスクをしながらも声を出して歌える楽しさを、当たり前前の普通の事ですがとても感謝しています。当たり前だった事が当たり前でない日々、ありがたいと思える良い経験なのかなと感じております。

「コロナ禍の生活で思うこと」

新型コロナウイルスが流行している中、日々色々な事に不安を感じながら生活しています。ある新聞でコロナ禍の影響で家の片付けや整理を行う家庭が急増しているという記事を読み、私自身も何か環境を変えて心にゆとりのある生活を送りたいという気持ちが湧き、今は自分のペースで片づけ始めています。

記事の一文に「自分に必要な物を選ぶ」が片付けで一番大事なことです。とあり、これは簡単で当たり前な事なのですが、それは片付けに対してだけではなく、今の自分に対しての問い、そしてこれから先の自分に対しての宿題でもある様に思えました。一日も早いコロナの終息を願いながら、一日一日を大切に過ごしてゆきたいと思います。

「コロナ感染症」

コロナに明け暮れる毎日で、なかなか終息するとは思えない中、高齢者二人の生活を送っています。人様の出入りも少なく、外出も減り、テレビの前の生活で身体の動きが鈍くなったことに気づきます。一年前より「訪問型健康応援サービス」を受け、夫は訪問の日を楽しみに待っています。健康チェック、運動指導、お話の中で体調チェック、本人の興味のある事を見つけ出して頂き即実行、嬉しそうにお話している姿を見ているとさすがプロです。

一緒に楽しく活動しているその時間だけでもストレス解消です。ボケ防止に繋がり、老夫婦今からでも遅くはない、健康予防、健康寿命を願って頑張っています。

コロナで来る人も少ない中、はじめて燕が子育てをしてくれとても癒してくれました。

コロナで明けコロナに暮れて、もうすぐ二年になる。自粛の日々が続き、すべての行事が中止を余儀なくされ、マスクの生活が定着する昨今、テレビ新聞は自粛を緩和すると…そして穏やかな明るい斐川が、おんぼらとした私達の生活が一日も早く戻ります様、切に望みます。

コロナで旅行もできないし、食事会もできません。ひい孫にも会えません。早く元の生活が出来るよう願うばかりです。

コロナ禍の中、人とのかわりが少なくなったが、このことがきっかけでさまざまな活動の見直しなど地域、家庭でも行われたと思います。個人的には、家のかたづけなどでできてよかった。

東京オリンピックで試合後の選手のコメントに「賛否両論ある中で開催して頂き感謝します」の言葉に感慨無量でした。

いつも通る道にオレンジ色の小さな花をつけた金モクセイの木があり、車から降りるとその芳香について足が止まってしまう。

コロナも忘れマスクを取ってしまうこの頃です。

昨年から続いているコロナ禍の中、少し不自由と思える生活感が続いています。先般、身近なところでスワッ！濃厚接触者?!という事態が有りました。

結果的には、何事もなかったのですが、心のどこかで他人事と思っていたものが、誰でも・どこでもあり得るものだとヒヤッとしたと同時に、自分事として真剣にコロナ対策をしようと強く思いました。わたしの好きな言葉を紹介します。

『失ったものを数えるな！残された今あるものを活かせ！』

ブツブツつぶやいては、フムフム…OK！と日ごろの生活の中で心がけています。



日本更生保護女性連盟会長表彰

受賞おめでとうございます

出東支部 飯塚 順子 さま

日本更生保護女性連盟会長表彰を受賞して

出東支部 飯塚 順子

新型コロナで昨年に続き6月に東京で開催予定の“日本更生保護女性の集い”は中止でしたので、島根県更生保護事業関係者顕彰式典が11月にくにびきメッセで開催され、島根県更生保護女性会会長から日本更生保護女性連盟千葉景子会長の代読で“日本更生保護女性連盟会長表彰”をいただきました。

当日は出席人数を少なくして行われましたが、厳粛な中にも華やかさがありました。

このような受賞の機会を頂き感謝しています。これも先輩のみなさま・会員のみなさまのご指導ご支援のおかげと感謝し、お礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

これからも事務局長として、縁の下の力持ちで活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。



各支部からのメッセージ

荘原支部 岩谷 初江

「さ、おばあちゃん、宿題するよ。」遊びに行く事もままならない小学五年生の孫は、学校から帰り、休憩を終えると私に声を掛けます。今日は漢字ドリルで自分は宿題を、私にはテストをしてくれます。いつ迄続くか分からない御時世だけれど、私にとってとても貴重で、かけがえのない時間です。

直江支部活動を振り返って

直江支部長 上代 恵子

ここ1、2年は、コロナ禍で支部総会を開く事が出来ませんでした。

令和2年度から地域の挨拶運動に協賛し、隔月で通学路に立ち見守りを行っています。

愛の募金も、コロナ禍での文書依頼にもかかわらず、変わらず寄せて頂き有難く思っています。

昨年と同様、今年度も研修会をコロナの小康状態間を見計って三密を避けつつ開き、会員の交流・活動の視野を広げる事が出来ました。

久木支部長 高橋 芳子

昨年・今年とコロナ感染に怯えて活動を控えていた久木支部でしたが、これからはコロナと共存しながら「更女の原点」を改めて考え、会員の皆様とできることから、支部独自の前向きな活動に結び付けるようにしていきたいと思っております。

各支部からのメッセージ

『家族一緒が一番』

阿宮支部 三加茂 広子

コロナ禍にあって人との交流が変わってしまい改めて考えてみました。家庭、それは睡眠、食事、くつろぎ、家族との会話、思い出が積み重なる大切な場所、住み方、暮らし方で人生はいか程にも豊かになります。家族と一緒に私には一番居心地がいいです。何げない日常も家族あってこそ、嫌なことも大変なことも吹き飛んでいく、やっぱり「健康家族が一番」一緒に好きな私です。更女の活動に参加させてもらう度に、仲間の会員さんに、勇気を、元気を、支えてもらっていることに感謝です。想いは諸々ですがありがとうございます。

更生保護女性会は、大切な人と人をつなぐ場所です。

出東支部 多々納 玲子

コロナ禍で毎日の暮らしが窮屈ですがそれはそれで受け入れて、もっと自分の趣味の時間を楽しもうと思っていたのですが、何かと忙しく絵の一枚も描くことが出来ませんでした。

野良の子猫が住みついて、私の畑仕事の近くでいつもいっしょにいるかわいい友達になり、生きものを大切にすると、自分にもいい事がある様な気がします。

伊波野支部 内部 佐依

1年半以上会えてない子供や孫。でもラインでのメッセージやテレビ電話を頻繁にすることで、以前よりもお互いの様子がよく分かるようになったと感じます。

今ではできないことも多いけど、限られた中でできることを見つけて楽しみ、時世に合う生き方をしたいと思う日々です。

出西支部 宍戸 美智子

私たち出西支部は、敬老の日に、地域の子どもたちを温かく見守っていただいている高齢者の方に祝意を表したいと思いました。そこで、赤飯と一緒に折り紙でフクロウを作成し配布してもらおうと思い立ちました。フクロウは福来郎（福が来る）とか不苦勞（苦勞をしない）などの当て字が当てられ縁起物とされています。

どのようにして作るか、役員会を開き話し合いをしましたが、とにかく折り紙で折ってみることにしました。「一回覚えるとできるがね」と真剣に夢中になる人、「なんぼしても出来んわ」とすぐに諦める人、「ほかの作業をするわ」など色々な声が飛び交いました。結局、他の会員にも協力をお願いし、折り方の練習をして自宅で折ってもらうことにしました。

酷暑で外には出られないし、コロナ禍ではあるし、あっという間に650余りのフクロウが持ち寄せられました。折ったフクロウに目を入れたり、寿のシールを貼ったりして、作った台紙に貼り付け、千枚通しで穴をあけひもを通す作業を経てついに完成しました。

器用な人、折り紙の好きな人、人それぞれですが、皆が一つの目標に向かって和気あいあいのうちに作業をすることに大きな意義があります。

この作品作りを通して、人と人が繋がり、協力し合うことで完成の喜びを味わう事が出来ました。これを機に、これからもみんなで楽しく活動していきたいと思っております。

また、台紙は会員とお孫さんとの会話から生まれたものです。まさしく、更女の精神そのものであると思えました。



西野小5年 水 成実さん

台湾カステラ

材料 18×8×6cmの
パウンド型1台分

薄力粉…………… 35g
植物油…………… 大さじ2
塩…………… ひとつまみ
牛乳…………… 大さじ2
卵黄…………… 2個分

【メレンゲ】
卵白(あればL玉) … 2個分
きび砂糖…………… 40g

- 作り方**
- ①卵黄生地を作る**
ボウルに温めた油、塩を入れ、粉をふるいながら加え、泡立て器でぐるぐるとしっかり混ぜる。
温めた牛乳を2回に分けて加え、泡立て器でさっと混ぜ、卵黄を1個分ずつ加え、そのつどぐるぐるとしっかり混ぜる。
 - ②メレンゲを作る**
卵白をハンドミキサーの中速で泡立て、ふんわりしてきたら砂糖を2回に分けて加え、先がおじぎするくらいの少しやわらかめのメレンゲを作る。
 - ③合わせる**
メレンゲを卵黄のボウルにひとつくい加え、泡立て器でぐるぐるとしっかり混ぜたら、メレンゲのボウルに戻し入れ、泡立て器で底からすくうように、さっと混ぜる。
*メレンゲをつぶさないように気をつけて生地のでき上がりは、ふわっとしつつ、とろりとした感じ。
 - ④焼く**
型に1/3量ずつ流し、そのつどゴムベラで平らにならし、15cm高さから台に2~3回落として中の空気を抜く。
オープンに入れ、天板のふちギリギリまで水を注ぎ(やけどに注意)、150℃で30~40分焼く。焼き上がったら15cm高さから台に1回落とし、焼き縮みを防ぐ。
熱いうちに型から出し、オープンシートをすべてはがし、網にのせて冷ます。
*焼いたあとにしぼんで生地がつぶれる場合は、温度を10℃上げる、焼き時間を5~10分長くするなど試してみてください

下準備

- ・卵黄は室温に戻し、卵白はボウルに入れて冷蔵庫で冷やしておく。
- ・油と牛乳は、それぞれ湯せんで人肌に温める。
- ・型より3cm高くなるようにオープンシートを敷く。
- ・オープンに天板を入れ、150℃に温める。
- *ゆっくり火が入る紙製の型や牛乳パックがおすすめ。
底をアルミホイルで覆って

編集後記

未知の感染症コロナと向き合って2年が経過しました。活動の見通しが立たない中、今年度はほほ笑い発行の年。とにかく発行することを目標としてきました。編集会議も回数を極力控え、しかも短時間に。会議を開くたびに中身の修正を余儀なくされましたが、それでもみんなで知恵を出しあい、第11号発行の運びとすることが出来ました。これもひとえに会員の皆さまのご協力があったからこそと編集委員一同心からお礼申し上げます。

振り返ってみて、こういう時の流れの中でも更女の活動を続けて来られたことを懐かしく語る時が一時も早く訪れることを編集委員一同願っております。

最後に、快く原稿依頼に応じて下さった方々に心より感謝いたします。有難うございました。



裏表紙イラスト説明 (水 成実)
絵は、シトラスリボンの中央に、アマビエが描かれています。シトラスリボンとは、「地域」「家庭」「社会(職場、学校)」を示す3つの輪がかたく結ばれたリボンのことです。左の輪は「家庭」上の輪は「地域」右の輪は「職場」を描き、差別偏見のないあたたかい暮らしを表現しました。そのような社会の中でコロナ禍が収まりみんながもとの生活に戻れるよう願っています。

この「広報ほほ笑い」は、「出雲市社会福祉協議会の会費、寄附金及び共同募金を財源とした助成金」を財源の一部として発行しています。

お礼状のご紹介

このほかにも
お礼状をいただきました。
ありがとうございます。



新春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。今年度も、保育園の子どもたちのために図書カードをいただき、ありがとうございます。絵本を購入させていただき、活用させていただきます。誠にありがとうございます。書画をもってお礼とさせていただきます。報告とお礼が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。更生保護女性会の皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

出雲市社会福祉協議会 会長 西 祐郎 他職員一同

令和3年12月15日

更生保護女性会
会長 江島 佳子様

社団法人 出雲市社会福祉協議会
会長 西 祐郎 様

御礼

先日は、送付いただいた図書カードをいただき、誠にありがとうございます。今年度も、保育園の子どもたちのために図書カードをいただき、活用させていただきます。誠にありがとうございます。書画をもってお礼とさせていただきます。報告とお礼が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。更生保護女性会の皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

出雲市社会福祉協議会 会長 西 祐郎 他職員一同

令和3年12月10日

出雲市社会福祉協議会
会長 西 祐郎 様

出雲市立児童養育所
所長 江島 佳子 様

御礼

先日は、送付いただいた図書カードをいただき、誠にありがとうございます。今年度も、保育園の子どもたちのために図書カードをいただき、活用させていただきます。誠にありがとうございます。書画をもってお礼とさせていただきます。報告とお礼が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。更生保護女性会の皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

出雲市社会福祉協議会 会長 西 祐郎 他職員一同

令和3年12月10日

出雲市社会福祉協議会
会長 西 祐郎 様

出雲市立児童養育所
所長 江島 佳子 様

御礼

先日は、送付いただいた図書カードをいただき、誠にありがとうございます。今年度も、保育園の子どもたちのために図書カードをいただき、活用させていただきます。誠にありがとうございます。書画をもってお礼とさせていただきます。報告とお礼が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。更生保護女性会の皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

出雲市社会福祉協議会 会長 西 祐郎 他職員一同

令和3年12月10日

出雲市社会福祉協議会
会長 西 祐郎 様

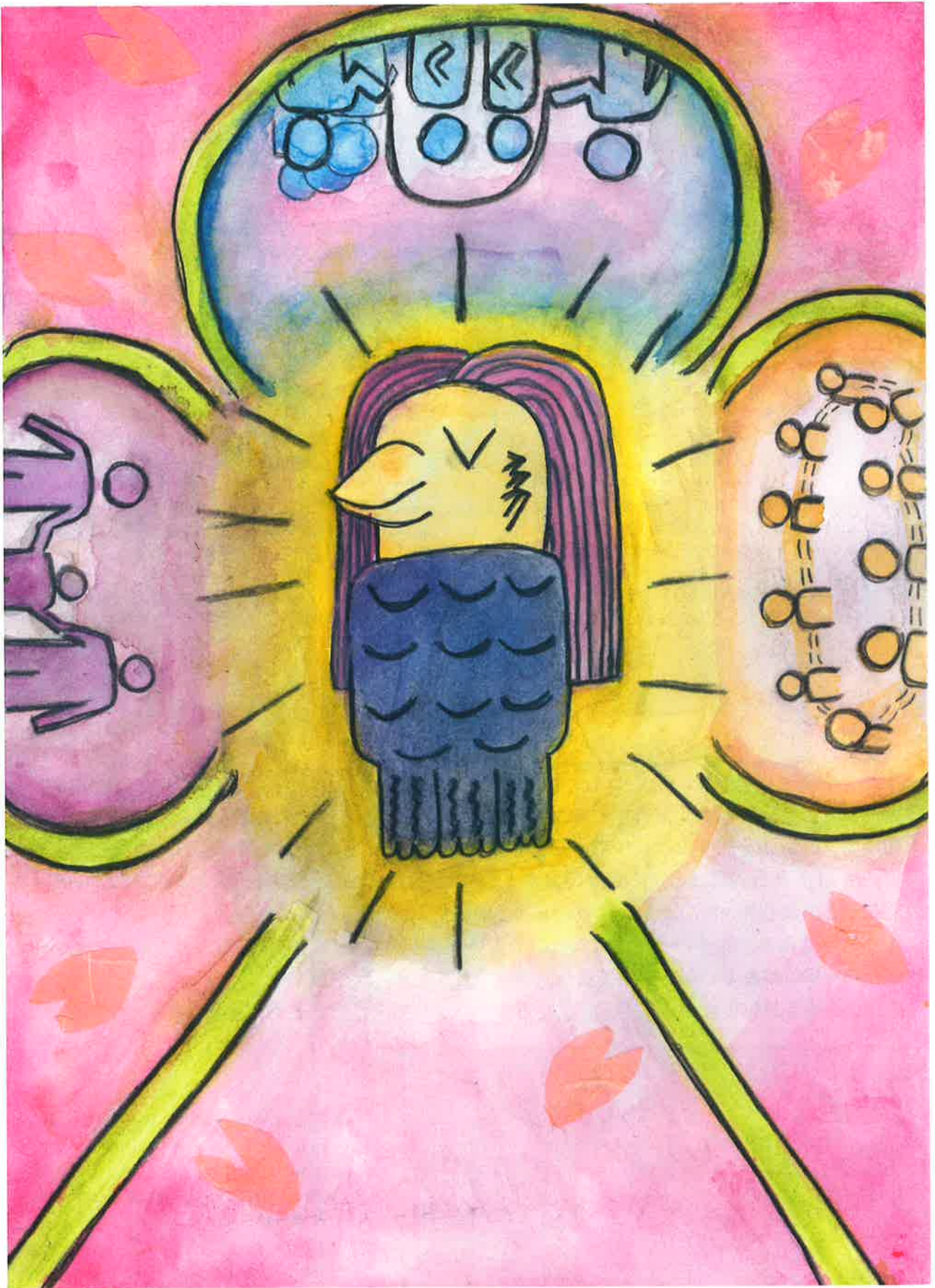
出雲市立児童養育所
所長 江島 佳子 様

御礼

先日は、送付いただいた図書カードをいただき、誠にありがとうございます。今年度も、保育園の子どもたちのために図書カードをいただき、活用させていただきます。誠にありがとうございます。書画をもってお礼とさせていただきます。報告とお礼が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。更生保護女性会の皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

出雲市社会福祉協議会 会長 西 祐郎 他職員一同



「シトラスリボンとアマビエ」 西野小5年 水 成実さん作

斐川町更生保護女性会 ほほ笑み第11号 令和4年3月